

令和8年度全国学力・学習状況調査の実施について(概要)

1. 調査事項・日程

(中) 英語は令和5年度以来の実施。

| | 調査事項 | 方式 | 日程 | |
|------|--------------------------|------------------------|----------------------------------|--|
| | | | 通常実施 | 後日実施 |
| 教科調査 | (小) 国語・算数 (中) 国語・数学 | 冊子による 筆記方式 | 4/23 (木) | 4/24 (金) ~30 (木) |
| | (中) 英語 | 聞く・読む・ 書くこと 話すこと | オンライン (MEXCBT) | 4/20 (月) ~23 (木) 予備日：4/24 (金) 当日実施：4/24 (金)・27 (月) (全国から500校抽出) 期間内実施：4/28 (火) ~5/29 (金) (期間内実施に限り、学校外でオンライン実施可) |
| 質問調査 | (小) 児童質問 (生活習慣、学習環境等) | オンライン (MEXCBT) | 4/24 (金) ~5/8 (金) | 調査実施日翌日～5/8 (金) (学校外でオンライン実施可) |
| | (中) 生徒質問 (") | | 4/20 (月) ~23 (木) 予備日：4/24 (金) | 4/27 (月) ~5/8 (金) (学校外でオンライン実施可) |
| | 学校質問 (指導方法、条件整備状況等) | オンライン | 4/1 (水) ~17 (金) | |

①英語及び児童生徒質問の調査実施日は、通常実施の期間から各学校の希望を踏まえて事前に指定する日とする。

②英語及び児童生徒質問について、後日実施（英語（話すこと）にあっては期間内実施）の期間は、登校困難、欠席、技術的トラブル等の事情に応じ、**学校外（自宅、院内学級、教育支援センター等）**でオンライン実施可。

2. 令和8年度調査に関する実施要領の主な特徴

- ◆ 中学校英語に関する調査をCBTで実施し、調査結果をIRTスコア等で示すこと。
- ◆ CBT・IRT の意義を最大限反映させ、児童生徒一人一人の学力・学習状況が細やかに分かる結果の示し方とすること。
- ◆ 引き続き、障害のある児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒に対する配慮を可能とすること。
- ◆ 英語（「話すこと」を除く。）及び児童生徒質問調査については、調査実施日（予備日を含む。）にあっては学校での実施とし、後日実施期間にあっては学校外での実施も可能とすること。英語「話すこと」については、当日実施校にあっては学校での実施とし、期間内実施校にあっては学校外での実施も可能とすること。
- ◆ 「令和7年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」（令和6年12月23日付け6文科教第1467号文部科学事務次官通知別紙。）で別に定めることとしていた、「全国学力・学習状況調査の調査結果の取扱いの改善等について」（令和7年6月6日付け7文科教第507号文部科学省総合教育政策局長通知）における文部科学省による調査結果の公表の取扱い等について、本実施要領に定めること。

3. 英語の調査に関する留意事項

（時間割モデル関係）

- ◆ 3技能の調査は、「読むこと」「書くこと」で50分程度、「聞くこと」及び生徒質問調査で50分程度とする。「聞くこと」調査では、ヘッドセットのほか、授業等で利用する使い慣れたイヤホンも使用可。ヘッドセット・イヤホンの保有状況に応じてグループを分ける。
- ◆ 「話すこと」調査は20分程度とし、ヘッドセットを使用する。ヘッドセット、ネットワーク環境等の状況に応じてグループを分け、分散しての着席で実施する。

（結果返却・公表関係）

- ◆ 学校・教育委員会に対する結果返却は、7月（3技能）と秋（話すこと）の2段階で行うことを想定。
- ◆ 国による結果公表は、7月の全国データについては、「話すこと」当日実施校500校の結果により、4技能全体の分析結果を公表し、秋の都道府県・指定都市別データについては、4技能総合のIRTスコア平均やIRTバンドの分布を公表する方向で検討。

4. 令和8年度全国学力・学習状況調査英語CBTのポイント

CBT調査の確実な実施

①試行検証・令和7年度理科CBTを踏まえた改善

- ◆ 当日のトラブル等で調査ができなかった学校が再度取り組む事ができるように**予備日を設定**。
- ◆ ネットワーク等の負荷を小さくするため、**英語「話すこと」の実施期間を1か月強にして分散実施**。
- ◆ ヒューマンエラーが起こりやすい局面（**問題配信、解答データ送信**）や、**フィルタリングソフトの設定見直し**による改善事例等の周知。

②音声など解答データの確実な取得

- ◆ 英語「話すこと」について、前回は一定時間経過により強制遷移する設定だったが、**解答が終わり次第、手動で次のページに進む方式**とする。
- ◆ 万が一提出できなかった生徒の解答データについても出力して採点できるように、MEXCBTの機能改善を実施。

③「聞くこと」の実施方法の変更

- ◆ 英語「聞くこと」について、前回はCDを使用したが、**ヘッドフォン・イヤホンの個別使用**により実施する。

CBT・IRTを生かした学びへの還元

生徒の到達状況・課題の適切な把握 及び 個に応じた指導の支援

- ◆ 一人一人の学力の状況を正確に把握することに留意した出題とした上で、今まで以上に多くの問題を使用し、**幅広い領域・内容等**から調査。
- ◆ 返却できるものから結果の提供を行い、**7月頃に英語3技能の結果、秋頃に英語「話すこと」の結果、の2段階で返却**。
- ◆ IRTバンドごとの解答状況の特徴を分析した**G-P分析図や、授業アイディア例を提供**。
- ◆ 解いていない問題も含め、全ての公開問題について後日MEXCBT上で取り組むことを可能とする。
- ◆ **タイピングの習熟度状況の簡単な把握**等を検討する。